

大阪国際がんセンターにおけるカペシタビン錠 (先発品：ゼローダ錠) の服薬指導概要

1 用法用量（分かれば休薬期間も）を説明する<下記の情報は中外製薬DIより入手した>

・朝夕食後30分以内に服用すること。

（臨床試験で朝夕食後30分以内と規定されたため。空腹時でも薬物動態的には問題なく、特に有効性への影響はない（安全性は不明））。

・飲み忘れはできるだけしないようにする。服用間隔は10時間以上あける必要があり、それより短くなるようであれば服用しないこと、および2回分をまとめて服用しないことを指導する。

2 作用の初期症状と対処法を指導する

下記の副作用以外にも明らかにいつもと調子が異なると感じられたならば、
すぐに当センター（代表：06-6945-1181）に連絡する旨を指導する。

（夜間祝日であっても当直医が適切な指示を出すため）

手足症候群…治療継続する上で薬剤師の指導が重要な副作用である。

カペシタビン服用開始日から、保湿剤（なければ市販のハンドクリームも可）の手・足への1日数回塗布を行う（保湿により手足症候群の頻度・重症度が低下するエビデンスあり）。日常生活では、手足を安静に保つことを説明する。

Grade2（腫脹を伴った紅斑で疼痛を伴うが日常生活に問題なし）が生じた場合には、直ちにカペシタビンの服用を中止し当センターに連絡する旨を説明する。

保湿剤の塗布のあとステロイド外用剤を1日2回、患部にのみ塗布する。

骨髄抑制…感染症対策（手洗い・うがい）。**37.5°C**以上の発熱があれば当センターに連絡する。

悪心…頓用の制吐剤があれば服用することを説明する。悪心が生じた場合には、

栄養のことは考えずに食べられるものを選択し、1日5,6回に分けて少量ずつ食事摂取する。

口内炎…服用開始1週間後ごろ生じる場合がある。予防が可能な副作用であり、毛先の細い柔らかい歯ブラシで力を入れずに1日3回歯磨きをする。ハチアズレなどの含嗽薬があれば1日5回程度、なければ水道水で頻回にうがいをする事が有効な予防法である。イソジンは使用不可。

下痢…服用開始2週間ごろ生じる場合がある。下痢が生じはじめた場合には、刺激物などの摂取は控え、脱水予防のため水分を多めに服用する旨を説明する。下痢が普段の排便回数より1日4回以上増加した場合や血便、強い腹痛などを伴う場合にはすぐに当センターに連絡する。

間質性肺炎…発症時期は不明。ほとんど生じないが、初期症状（空咳、息切れなど）が感じられた場合には、すぐに当センターに連絡する。

③ダイアリーを毎日記載し、主治医の診察時に提示することを説明する

・体温測定は毎日1回決まった時間に行う。

・服用期間だけでなく休薬期間も記載を続ける。